

社員の皆様

日頃の勤務お疲れ様でございます。

例年であれば7月ごろエコアクション21報告会を開催し、社員に対して環境への取組について報告させていただいているのですが、今年は新型コロナ禍のため、通常の報告会を開くことが困難なため、当社のエコアクション21の立ち上げにご協力いただき、毎年エコアクション21報告会においていただいている河合環境コンサルタント事務所所長河合直樹様から、昨年度の環境経営レポートについて、講評いただきました。

全施設へ環境経営レポートの配布及び河合先生の講評をもって、令和元年度の報告とさせていただきます。

株式会社イービーエム

環境管理責任者 田口浩之

河合環境コンサルタント事務所所長 河合直樹様より

■全体の印象

ビルメンテナンス業における環境への取組みとしては、まさに模範的な取組みが行われていると評価します。2019年版のレポートにおいても強アルカリイオン電解水の利用推進、SDGsとのコラボレーションなど、新しい取組みが紹介されており、年々スパイラルアップしていることが実感できます。ただ、敢えて厳しい意見を述べさせてもらうなら、デザインが発刊（2016年版）当初と全く同じなのはいただけません。初めて読む人は別として、少なくとも社員はレポートを毎回見ているわけで、同じデザインだとまたかという感じがして、正直、読んでみようという気が少しだけ後退してしまうように思います。テンプレートデザインを別のものにするとか、全体の色使いを変えるとか、ちょっとした変化がほしいところです。ページ数は適当でしょう。もう一つ。取組んでいる社員の姿がもっと見えるようにできませんか。顔写真入りのインタビューなどを多用してくれるともっと親しみが持てます。社員がレポートを家庭に持ち帰り、家族に自慢できるようになると良いですね。環境活動レポートは、社員、お客様、一般市民とのコミュニケーションツールであることも忘れないで下さい。



■取組みへのアドバイス

1) レポート以外での提案です。現在、各排出源ごとに二酸化炭素排出量の目標を設定していますが、これを全部足し算して、「総二酸化炭素排出量」で目標展開し、あとは、電気(Kwh)、ガソリン(ℓ)など、それぞれの単位で目標設定してはいかがでしょうか。そうすると、例え

ば、二酸化炭素排出係数の小さい電力小売業者に契約を変更することによって、総 CO₂を減らしていくことができます。これも立派な環境への取組みになります。

2) レポートで公表する以上、「目標未達」ばかりでは、理由がなんであれ、あまりカッコよいものではありません。辻褄を合わせるようですが、年度途中で、目標達成が難しいと判断したら、目標を見直して、最終的には、(見直した後の) 目標達成にしておいた方が、見栄えはよろしいと思います。正当な理由があれば、目標の見直しは全然 OK です。

3) イラストや写真などを社員から募集するのも良いと思います。(エコフォトコンテスト) また、環境コミュニケーション大賞受賞作品を見て参考にしましょう。昨年度の大臣賞を受賞した DINS 堺さんのレポートは素晴らしい出来栄でした。

<最後に>

興味深いアンケート結果があります。「あなたにとって、気候変動対策はどのようなものですか?」という質問に対して、「生活の質を脅かすもの」と答えた人は、日本人 60%、世界平均 27%、「生活の質を高めるもの」と答えた人は、日本人 17%、世界平均で 66%だったそうです。将来の気温上昇を産業革命以前より 2℃以下に抑制するというパリ協定の目標を達成するためには、今世紀後半に「CO₂排出ゼロ」を目指す必要があります。とても「ケチケチ運動」で達成できるレベルではありません。これを達成するには、社会全体のシステム自体を変えていく必要があります。そのために私たちにどんなことができるのでしょうか。一つは、情報を発信していくことです。環境経営レポートは、そのための手段です。それ以外にも今の世の中、SNS で、様々な情報を世界中に発信できる世の中になっています。もう一つは、環境の取組みを会社だけでなく、家庭や周りの人に広めていくことです。それから、あと一つ、賢い選択 (COOL CHOICE) をすることも大切です。買い物するとき、少々高くても環境にやさしい製品を買いましょう。物だけでなく、電力もその対象になります。今は、自由に電力会社も選べる時代です。再生可能エネルギーを主体とした電力を供給している会社への変換を進めていけば、やがて、世の中全体が変わっていきます。政治も例外ではありません。選挙で投票をするとき、その候補者が気候変動問題をはじめとした環境問題にどのような考えをもっているかを判断材料にしましょう。このように我々ができることは、まだまだたくさんあります。まずは、地域の環境保全に貢献していることを自負しながら、仕事も省エネも「楽しく」進めていきましょう。明るい未来のために。

<指定管理施設版>

全体版の他に指定管理施設 5 カ所のレポートを作成するのは、大変なご苦勞だと思います。ページ数が増えても全体版に盛込む手もあると思いますが、施設ごとに作成した方が、施設利用者や委託先へのアピールにはなるでしょう。今後も続けて下さい。代表者による見直しを施設ごと記述していることはグッドです。いずれの施設も老朽化が進み、省エネの取組みを進めるのもなかなか難しいとは思いますが、例えば、専門家による省エネ診断（無料）を受診し、アドバイスを受け、実施可能な取組みを環境経営計画に盛り込むことをお勧めします。環境ネットやまがたで受け付けています。（省エネプラットホーム事業）

■施設レポートへの講評

1) 米沢市民文化会館

目標達成状況の棒グラフについて、年度ごとに色を統一した方が見やすいと思います。（他のレポートも同様）環境活動計画と取組結果表の下部に書いてあるコメント（p8）が正直に書いてあって好ましいです。独自に進められている取組みは、上の表にも反映して下さい。（取組内容を各施設の実情に合わせて入れ替える）安全衛生ポスターのコンテストについては、今後、対象を「環境・安全・衛生」に拡大してはいかがでしょうか。



2) 米沢市児童会館

エコキャップ、LED、グリーンカーテンなど、独自の取組みも評価できます。資格取得者の増加が目標に掲げてありますが、ちなみにどんな資格なのでしょう。この施設の主役は児童ですから、まずは、主役の来場数が増えるような工夫が必要でしょう。目玉のプラネタリウムだけに頼らず、環境問題、SDGs、科学全般で子供たちが興味を示すようなイベントを企画してみることはできないでしょうか。環境ネットやまがたでも協力できると思います。



3) 米沢市営体育館

老朽化したボイラーがあるようなので、前述の省エネ診断をお勧めします。独自の取組みとして紹介されているスポーツゴミ拾いについて、もう少し詳しく、そのルールなどを含めて、記述してくれるとよかったです。市民の健康づくりが環境負荷の削減にもつながると考えれば、施設利用者を増やす取組みも重要です。いろんなイベントを企画しながら取組みを進めて下さい。



4) 置賜総合文化センター

市の職員と連携した取組みが行われていることが最も評価すべき点です。指定管理者だけの努力では、環境負荷の削減は難しいでしょう。施設を利用する人すべてが協力し進める体制づくりが是非必要だと思います。「社会教育の拠点」である同センターにおいて、なすべき本質的な取組みはないでしょうか。施設の独自の取組みを考えてみて下さい。



5) 南陽市勤労者総合福祉センター

同じエコキャップ収集活動でも「日本一周プロジェクト」など、ちょっとした工夫でモチベーションが上がるのだなと感心しました。ワトワセンターのワトワとは「和と輪」のことなんですね。和と輪まつりで、参加料をペットボトルキャップにするアイデアはなかなかです。それから、スタッフ自作の環境掲示物もとても好ましいです。(各施設の掲示物のコンクールを実施するのも面白いかな…)



☆指定管理施設の環境経営レポートはこちらのQRコードから見ることができます。



米沢市市民文化会館



米沢市児童会館



米沢市営体育館



置賜総合文化センター



南陽市勤労者総合福祉センター

継続は 力なり